

【学力向上フロンティア用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	埼玉県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	荒川村立荒川東小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	1	1	2	2	2	1	11	18
児童数	50	38	37	50	60	49	2	286	

研究の概要

1. 研究主題

<p><b>算数科における個に応じた学習指導の改善</b>                  確かな学力の定着と主体的に学習に取り組む児童の育成</p>
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>・3年生～6年生・算数                  児童の理解の状況に差が出やすい中学年からの算数科において、少人数指導を実施することにより、確かな学力の定着(知識・技能、思考力・判断力、表現力、学ぶ意欲)と主体的に取り組む児童の育成を図っていくため。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ                  確かな学力の定着と主体的に学習に取り組む児童の育成                  研究の見通し(仮説)                  学習指導の充実、学習環境の整備、適切な評価方法の工夫改善を図り、児童が学ぶことの楽しさや充実感を味わえる授業を展開すれば、確かな学力の定着と主体的に学習に取り組む児童を育てることができるだろう。</p> <p>研究の内容・方法                  (研究の視点1 学習指導の充実)                  *有効な単元における算数科少人数指導計画の作成 *児童の実態に適した効果的な指導方法 *授業研究会の実施                  (研究の視点2 学習環境の充実)                  *発展学習、補充的学習のための教材開発 *校内環境整備の工夫                  *地域、家庭への啓発                  (研究の視点3 適切な評価方法の工夫改善)                  *学力調査問題の実施、考察 *少人数指導実施記録簿の有効活用                  *レディネステストの実施 *振り返りカードの利用</p>
平成16年度	<p>テーマ                  確かな学力の定着と主体的に学習に取り組む児童の育成                  研究の見通し(仮説)                  少人数指導による指導方法の工夫改善・充実、学習環境の充実、適切な評価方法の工夫改善を図り、児童が学ぶことの楽しさや充実感を味わえる授業を展開すれば、確かな学力の定着と主体的に学習に取り組む児童を育てることができるだろう。</p> <p>研究の内容・方法                  【研究の視点1 学習指導の充実】                  *少人数学習集団による有効な単元の算数少人数指導計画の作成 *児童</p>

の実態に適した効果的な指導方法（指導体制、指導形態を工夫した個に応じたきめ細やかな指導、問題解決的な学習の授業の展開、算数的活動を取り入れた単元構成の工夫、学び合いを意識した授業の展開）\* 授業研究会の実施

【研究の視点2 学習環境の充実】

\* 発展学習、補充的学習のための教材開発（繰り返し学習、多面的学習、算数的活動による補充、基礎・基本を活用して問題を解決していく学習）

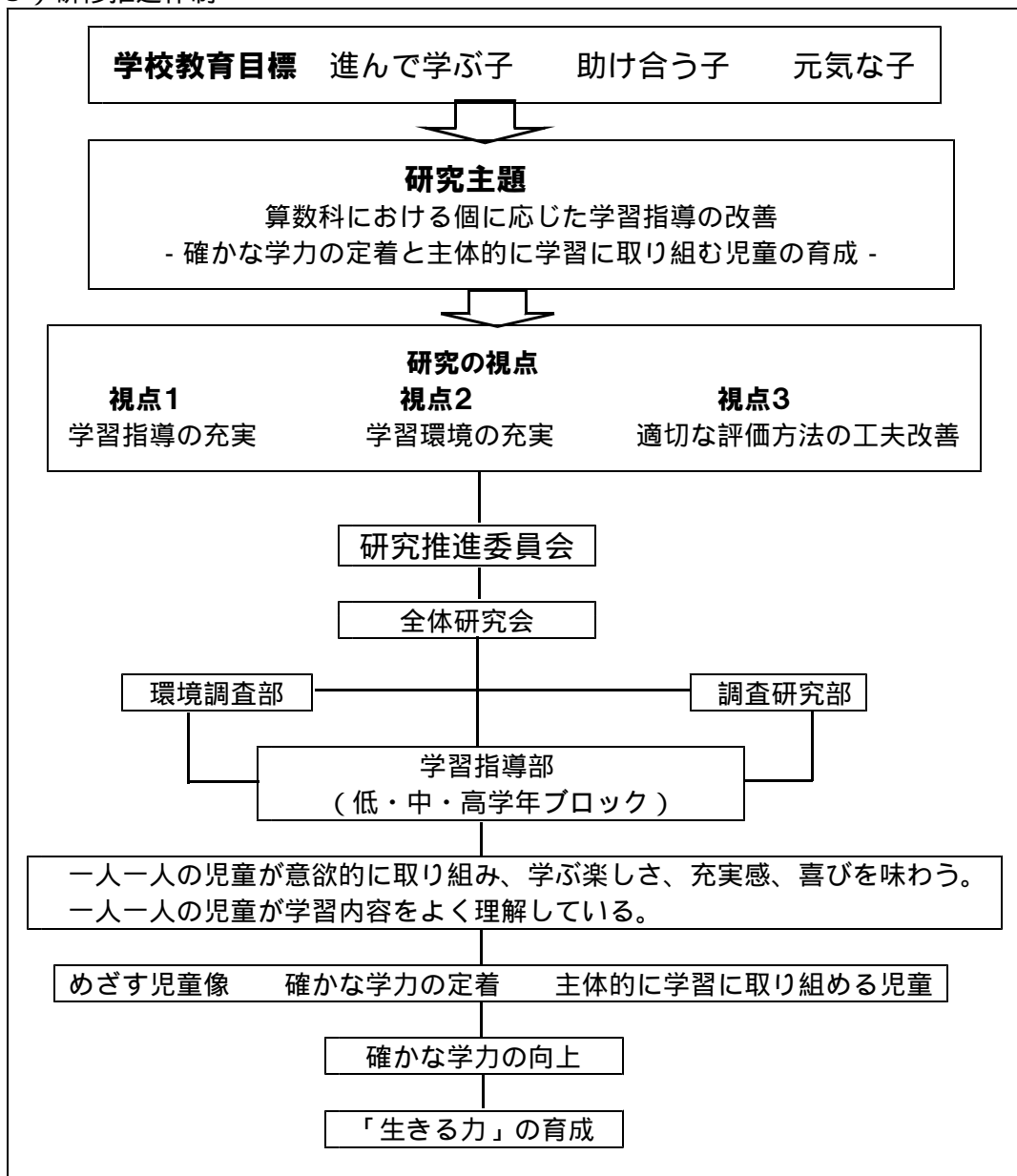
\* 校内環境整備の工夫 \* 地域、家庭への啓発

【研究の視点3 適切な評価方法の工夫改善】

\* 児童の学力の評価を生かした指導の改善 \* 学力調査問題の実施による比較検討、学力の定着度の考察 \* 少人数指導実施記録簿の有効活用

\* レディネステストの実施 \* 振り返りカードの利用

(3) 研修推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

児童理解について担任一人による一斉授業では見えなかった場面を見ることができ、多方面にわたり、よさを多く発見できるようになった。  
教師も一人一人によく目が行き届くので、指導しやすくなった。つまり子どもも発見しやすくなった。  
少人数指導をすることによって、発展学習や補充学習が充実してきて、各々の児童が意欲をもって取り組むことができた。  
コース別の学習が軌道にのり、児童の学習への興味、学力が高まってきた。  
各々の児童のペースで学習ができ、特に補充コースの児童にとっては、有益である。  
児童の多くが少人数による学習に肯定的である。発表の機会が多くなり、教師からもていまいちよく見てもらえるなどの意見が多い。(アンケート結果より)

### 2. 今後の課題

2クラスを2コースでは、補充学習の人数が多いとき、その児童の指導にかかりきりになったり、逆に不十分になったりという場合がある。今後は3コースを設定する必要があると思われる。  
多様な考え方の児童に対応するための指導方法や指導体制のさらなる工夫・研究が必要である。  
発展的な学習や補充的な学習等個に応じた指導のための教材の開発をさらに進めていく必要がある。  
学習の効率を求めるのではなく、人間関係を育てる視点も忘れないようにしたい。

## 学力等把握のための学校としての取組

### 標準学力検査の実施

- ・調査の目的 学力の定着度を調査し、児童の学力の評価を生かした指導の改善を図るため
- ・実施内容 国語、算数について2年生～6年生で実施。
- ・時期 6月下旬
- \*その他 児童の教科の意識調査を実施(年2回、6月と3月) かけ算九九到達度テストの実施

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- \*平成15年度秩父地区学力向上指導実践事例集及びリーフレットの作成
- \*本校研究紀要並びにホームページの作成
- \*平成16年度秩父地区学力向上研究協議会の実施予定(11月)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |                |
|----------------------|----------------|
| 【新規校・継続校】            | 15年度からの新規校     |
| 【学校規模】               | 7～12学級         |
| 【指導体制】               | 少人数指導 T・Tによる指導 |
| 【研究教科】               | 算数             |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | 有              |